

2010年8月30日

学生FDサミット・2010夏

—大学を変える、学生が変わる—

教育開発支援機構FD推進センター

センター長 川上 忠重

2010年8月28日(土)、29日(日)立命館大学衣笠キャンパスにおいて、学生FDサミット夏—大学を変える、学生が変わる—(以下サミット)に参加する機会を得たので、概要を簡単に紹介したい。本企画は立命館大学の学生FDスタッフが中心となり、2009年夏、2010年冬に引続き3回目のサミットである。全国規模の学生及び教職員が参加し、今回は34大学から210名を超える参加者となった。3回目の参加となったが、今回の特徴として初めてサミットに参加する学生が非常に多く、学生の大学を変えたいという気持ちの強さを感じられた。

サミットの内容は、28日にオープニング、サミット交流タイム、ミニトーク・全体説明、しゃべり場、懇親会となり、29日は、学生FD取組み紹介、グループワーク、グループワーク発表、エンディングで構成されている。ここでの「しゃべり場」とは、あるテーマに基づき自由に意見交換をしながら話し合う場である。今回のサミットでは、「大学の教育の意義」として、テーマ1:大学の教育と高校までの教育、テーマ2:どんな授業を望んでる?、テーマ3:学生生活を充実させるには?、テーマ4:成績評価についてどう思う?、テーマ5:大卒って何だろう?、が設定されている。

初日は、初参加の学生が多いということもあり、「しゃべり場」では、すべてのテーマを参考に自由に意見交換が行われ、二日目のグループワークの第2希望までを選定する。今回私が参加した「しゃべり場」では、他大学の学生の「成績評価」について、その評価方法、公平性、授業形態との関係等、FDに関係する疑問や問題点への指摘が数多く含まれており、あらためて、成績評価の「厳格化」について考えさせられた。

二日目は、学生FD取組み紹介があり、大阪大学、京都文教大学、名古屋大学、追手門学院大学、嘉悦大学、法政大学(社会学部)等の紹介がされた。詳しい内容

については、各大学のHPにも一部紹介されているので参照願いたい。

グループワークは、テーマ4:の成績評価についてどう思う?に参加した。グループワークに参加した多くの学生の指摘や疑問として、・出席点の扱い・どのような基準で採点がされているか?・試験の模範解答は必ず明示して欲しい(論述式も含む)・採点はTAにさせないで欲しい・ただ、授業に参加だけしている学生への対処をしてほしい・学生は自ら学ぶべきである・教員は学生から見て忙しすぎる(学生に対応する時間がない)・グループディスカッションを入れた授業を増やして欲しい等々、様々な意見が出されその対処方法が、全体会で結論として発表された。

今回の参加により、学生によるFDは、2年前と比較して、飛躍的に各大学で取組み始めている。また、そこに参加している学生達のモチベーションの高さは、特筆すべきものがある。本学においても5月からHART*コミュニティスタッフ(FD学生スタッフ)が誕生し、その活動をはじめているが、スタッフの活動や提案を通して、本学のFD活動をさらに発展・活性化していきたいと考えている。

2011年3月12日(土)、13日(日)には、「学生FDサミット2011春」が本学市ヶ谷キャンパスポアソナード・タワー、外濠校舎、富士見坂校舎にて開催予定である。本サミットは、HART*コミュニティスタッフが中心となり企画・運営され、既にマスコットキャラクターもデザインされている。一人でも多くの本学の学生及び教員・職員の方々の参加をお願いしたい。

https://www.hosei.ac.jp/kyoiku/fd/summit_fd/index.html

以上